令和４年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 教授
氏名： 清水　享

研究課題名	東アジア周縁部の祭祀と経典テキストの歴史学、文化人類学的研究
研究目的及び研究概要	本研究では東アジア周縁部である中国雲南省・四川省・貴州省に居住する彝族が用いる彝文字によって書かれた教典テキストおよび口承資料の分析を進める。彝族の宗教職能者である「ピモ」がこの教典テキストを用いて祭祀活動を行なっており、その祭祀活動の様相についても分析を進める。このような教典テキストや祭祀活動について、アジアの他地域の文化における祭祀活動や教典テキストとの比較なども行なう。そして彝文字によって書かれた教典テキストと「ピモ」の祭祀活動の歴史的変化、文化変容、社会的役割の変遷などを歴史学や文化人類学などの視点から、多角的に把握し、その実態や構造などを総合的に明らかにする。特に現在進めている彝文によることわざ「ルビ」の分析と、こうした彝族の文化に対する探求を早い時期に行なった近代の民族エリートの対応をも考察し、その実際の状況を解明する。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	本研究は彝族の「ピモ」の祭祀活動と教典テキストや口承資料の実態や歴史的変化、文化変容、社会背景に関するデータおよび歴史的経緯に関するデータを収集するため、中国・台湾や東南アジアなどで調査を進める予定であった。また日本国内における教典テキストなどの資料の状況の調査も進める予定であった。しかし一昨年度および昨年度同様、コロナ禍の影響で、海外や国内での調査を行うことがほとんどできなかった。ただ12月末に6日間、台湾へ資料調査に赴くことができた。 この台湾における資料調査は国史館、中央研究院、国家図書館で行なった。国史館ではイ族の民族エリートである龍雲や盧漢の個人档案、すなわち個人に関する資料を閲覧することができた。これは彝族文化の背景となる彝族社会とりわけ近代彝族社会の実情を把握する上で重要な歴史資料であり、今後の近代彝族社会及び文化の分析の重要な手がかりとなる。中央研究院では、近代史研究所档案館にて池永光ら彝族関係者から民主諸党派の黄炎培へ彝族土司嶺光電を国民代表大会の彝族代表として推薦する私信を閲覧することができた。これらの資料も近代彝族社会及び文化の分析の重要な歴史資料であり、特に近代彝族社会において彝族文化の保護育成を推進した嶺光電についての数少ない歴史資料であり、今後の考察を補完しうるものである。また国家図書館では台北市雲南省同郷会が発行している『雲南文献』を閲覧した。 今年度も昨年度より引き続き、彝文の口承のことわざである「ルビ」について、彝文で構成されていることわざ集『彝族爾比釈義』(全3巻、涼山州編訳局編、四川民族出版社、1990年、1993年、1995年)の解読および解説の翻訳を進めた。そしてその内容の分析と検討も進めた。この研究は彝族の人々の社会や文化を知る上で重要な基礎研究となりうるものである。ただその研究の速度はかなり遅いといえよう。しかし地道に進めており、研究の道筋はまだまだ遠いと言えるが、その蓄積は少しずつ着実に上がっている。 本年度はこのほかに東アジア周縁部の祭祀活動の研究として、福岡県福岡市博多区で実施されている祭祀行事である博多祇園山笠についてのフィールド調査も進めた。この研究については次年度も継続して進める予定である。